

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1093100061		
法人名	特定非営利活動法人 きずな		
事業所名	グループホームめいわ		
所在地	群馬県邑楽郡明和町新里352番地		
自己評価作成日	令和6年6月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年7月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①一人一人の出来る事、日常生活での役割を考え個人の能力を発揮できるように支援し、利用者様への個別ケアが出来る様に支援してます。  
 ②季節折々の制作作品を作り季節を感じながら制作を通してコミュニケーションや笑顔を引き出せるように明るく楽しく居心地の良いホームにできるように努めています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、馴染みの人との関係継続を大切に考え、コロナ禍においても、家族が顔だけでも見られるように工夫して面会の場を設けたり、日頃から関係の深い近所の方や友人などが面会しやすいように配慮したりなどの支援を行っている。重度化や終末期に向けた取組みについては、本人・家族の意向を最大限に尊重するために、医師との協力関係・連携を密に図り、看取り計画書を作成して体制を整え実施している。利用者がその人らしく生活を送れるよう、訴えや意向に耳を傾け、訴えが難しい人には、しぐさや表情などをよく観察して気持ちを掴み、意向に沿った支援ができるように努めている。職員は、日頃の業務や申し送り・職員会議で、気づいたことを積極的に意見や提案を行い改善につなげており、スケジュールにこだわらず、状況に合わせて業務変更するなど柔軟な対応が行われている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが見えるところに(フローヤ・事務所)に掲げ共有し努力している。	年度切り替え時に職員で話し合い、年度目標を作成し、理念の実現に取り組んでいる。普段の申し送りなど話し合いの場において、ヒヤリハットなどの事例などを取り上げ、年度目標に関連付けて確認し振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になり少しずつ以前に戻りつつある。3月にはこども園の園児たちとの交流会が行われ、利用者様と楽しく過ごす場面が持てた。今後も交流会の機会を作っていくようにしていく。	近所の方が、育てている花や野菜を届けてくれる。近所のこども園との交流が、3月から再開している。歌などのボランティアの訪問や地元のお祭りなどの行事はコロナ禍後で中断しているが、様子を見ながら関わりを持ちたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の場面においてなどで中で困っている方がみえた時は専門職をそろえているので対応していきたいと思えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し区長・副区長・民生委員さんなど地域住民方や・施設・役場の方と施設の報告や情報を共有できる場が持っています。又他施設の運営推進会議にも参加させていただき情報共有させて頂いております。	運営推進会議が再開し、町の担当者、正・副区長、民生委員が出席し、事業所の資料説明(入退居・行事・事故報告、内部研修など)があり、意見交換が行われている。家族の出席については案内しているが、出席には至っていない。	議事録の作成や家族を含め出席できなかった方への資料・議事録の配布など、より多くの関係者の関わりのもと、運営推進会議を活かした取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前は廃品回収などで地域の方と関わっていたが現在は出来ていないため今後地域の方と協力関係をきずいていけるよう取り組んでいく。	町の担当者とは、運営推進会議の際に意見や情報交換を行っている。町主催のぬり絵コンクールには、利用者も出品し、利用者の励みとしている。認知症カフェの参加について、利用方法などを考えながら試行中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開いており研修を通して職員と話し合い”身体拘束をしない”という事を勉強会を通してなぜしてはならないのかを理解・共有しチームケアにつなげる。	法人で定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、虐待を含め事例などを題材に、研修の場を設け理解を深めている。日頃の中で、利用者の行動をよく観察しながら、適切な対応ができるようにして、身体拘束に至らないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3か月に1回開催している。高齢者虐待についての資料配布をもとに研修を行い職員間で知識を共有し虐待について日々の自覚と責任を持って高齢者虐待防止につとめます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度を利用している利用者様がいた。現在も手続き中の利用者様がいます。 成年後見人制度についての研修を開催したことがある。さらに知識を深められるよう今後も行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームのという施設はどんな所か特色などをお話した上で施設で対応が出来る事と出来ない事の説明させて頂いてから契約手続きをさせて頂いております。又、解らぬ事など質問して頂ける様にお声掛けさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。 面会の祭など御家族様・利用者様から意見や要望を聞き、可能な限り実現できるように努力をしている。	面会や電話など、家族と接するときには、利用者の様子を詳しく伝え、その際に、意見や要望を聞くようにしている。意見箱も設けているが、家族からの意見や要望はあまり聞かれない状況である。	毎月の写真やお便りなどの送付の際に、意見や要望を頂く欄を設けるなど、機会をつくる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞きながら行っている。 業務中気が付いたこと・改善案など可能な限り意見や提案を話してもらえるように努め、取り入れている。 月に1度の職員会議の場でも意見が出せる。	職員は、定期的な職員会議や日頃の申し送り時などにおいて、気が付いたことなどは積極的に意見を述べ提案し、業務改善につなげており、意見や提案を言いやすい環境ができています。また、スケジュールにこだわらず適宜話し合い、業務変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回個人面談の場がある。 全体会議の時に処遇改善の話がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加している。 施設内研修は月に1回程行っている。 入職した方を教育をする上で励ましや共に学ぶ事でスキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場で行われている研修への参加している。 運営委推進会議の時に情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入職したての場合は利用者様も職員もわからない事ばかりだがアセスメントシートを読みその人の情報からその人を読み取る材料にし、早く施設での生活に慣れて貰えるかかわりを続けていく。利用者様の日々の生活で困った事に耳を傾け・目を向け安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族が困っている事や不安な事を聞き要望に答えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前は施設の見学をして頂き、現状で対応できることとお話する。情報から必要なケアについて把握し入居準備し支援できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に笑顔で接し安心して過ごせるように努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来たときは必ず会ってもらい毎日の世様子をお伝える。離れて暮らしているからこそ家族の絆は大切と思いお互いに良い関わりが持てるように生活を送っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ゆっくりと面会ができるような環境で面会して頂く。法人の他施設利用しているご主人や友人に会いに行ったり来たりしてすごしています。	コロナ禍、面会がままならないときでも、家族が顔だけでも見られるように工夫したり、近所の方や友人などが面会しやすいように配慮したりなど、馴染みの人との関係を大切に考え、継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しの合いそうな人同士や関わりやすい人同士を一つのテーブルに配置するなどして孤立を防ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	同じ場所で生活していても自分の思いを表に出せる人出せない人それぞれ出していない利用者に振れあうことを事を大切にしています。 可能な限り一人一人の意向に沿うようにケアを提供できるよう心掛けている。	話をしてくれる利用者には、希望などを直接聞くようにし、そうでない利用者には、表情やしぐさなどをよく観察し、気持ちを掴みながら対応するようにして、できるだけ利用者一人ひとりの思いや意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症になって今までの暮らしが解らない事がある。アセスメントシートを参考に生活歴や既往歴の把握し深いかかわりを通してその人を知る・知れる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団レクリエーション時においてご本人が望まないことはなく、ゆっくり過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや申し送りの時間を使い情報共有をしながら、現在最適であるケアを考えケアプラン作成に役立てていく努力をしている。	介護計画は、長期目標1年・短期目標半年で、利用者1人ひとりの実情に沿った計画を立てている。介護計画に沿って日々の記録をタブレットを使用し、記録している。半年毎に、日々の記録・申し送りやカンファレンスでの意見などを参考にモニタリングを行い、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを使用し日々の状況を記録している。申し送りで利用者様の様子や気づきをなるべく細かく伝え共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外でも柔軟な支援やサービスに取り組めるよう努力をしています。 基本通院はご家族様に対応して貰っているが利用者様の状況により通院介助など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めコロナの影響で行えなかった地域資源の活用をしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とメールで状況状態の変化を相談している。 ご本人・ご家族に在宅医療の紹介・説明し希望があれば居宅療養管理指導に契約して頂き利用しています。	およそ半分は、従来からのかかりつけ医に、家族の通院介助により受診している。受診の際、家族に適宜利用者の状態を伝えている。その他の利用者は、協力医が月に2回訪問診療している。看護師もおり、薬の管理や相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活の中でも小さな変化・違和感に気が付いた時はすぐに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携を取り入院中の状態など利用者様の様子を把握し退院に向けての受け入れ体制について情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人の家族の意思を十分に理解し情報共有し、ご家族、医療と連携を図りご本人に最適なケアが実践できるように支援出来るように取り組んでいる。カンファレンスを行い看取り計画書の作成。	入居時に重度化や終末期の方針を伝えると共に、家族のおおよその意向を聞き、状況に応じその都度意向を確認して、支援を行っている。家族、医師との連携を図り、看取りの場合には、計画書を作成して、最適なケアが実践できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	既往歴や意識消失がある方は注意深く見守る。 職員会議にて研修を実施している。 緊急時の対応マニュアルを用意してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を3か月に一度行っている。避難訓練を年2回行っています。	年2回、うち1回は夜間想定も取り入れ、消防署立会いのもと、火災訓練を、併設する事業所と一緒にやっている。その他、3ヶ月に1回、避難誘導を主体に訓練を行っている。備蓄は、法人全体で備えている。	火災発生時における近隣の協力体制の構築、自然災害(特に、水害)対策の構築に向けての取組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修については施設内研修の中に組み込まれています。	入浴は、職員が1対1で介助し、プライバシー空間が保持できるようにしている。話しかけるときは同じ目線で話すようにして傾聴し、利用者に寄り添い、可能な限り利用者のペースを優先するなど、一人ひとりの人格を尊重し対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し寄り添い思いをなるべく添えるように努めている。 実現が難しい希望を話される利用者様への接し方に悩んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な状況に限り利用者様のペースを優先して支援できるよう考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度美容師さんに来ていただきヘアカットが出来る様支援しています。 常に清潔を心がけボタンの取れや衣類にほつれのあるものは補修している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操を行っています。 食事前にメニューの読み上げ。 食事は全員揃ってから「いただきます」をい、皆で食べる。食事の号令も利用者様の当番で行っている。	ごはんのみそ汁(朝食)は事業所で作り、それ以外は業者が作ったものを温めて提供している。週3回は、職員が利用者の好みものなどを、手づくりで提供している。おやつは、利用者から食べたいものを聞いて応えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の確認・記録を毎日行っている。 水分摂取がなかなか進まない方には常に声掛けしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は必ず口腔ケアをして頂くよう一人一人に声掛けし、介助の必要な方には介助にあたる。 希望者は訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録・確認から排泄パターンを知り、尿意・便意の有る方無い方で違いますが時間帯で誘導するようにしている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時、定時声掛け誘導などを行い、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、レクリエーション活動にて身体を動かし排便が促せるように支援しています。 排泄表の記録から排便状況を把握し主治医に相談し排便コントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の入浴者には声掛けを早目に伝え入浴する心構えを作りゆっくりと入浴を楽しんでいただける様に努めている。	入浴は、週2回を目安に行っている。入浴時間は、本人がゆっくりと入浴できるように、長湯の人にも対応している。入浴を嫌がるときは、時間をずらすなどタイミングを図っている。また、同性介助を希望する場合は、そのように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や体力に合わせて午睡して安眠を取って貰えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋をファイルして薬置き場に置いてあります。 新しく処方された薬の情報などは申し送りノートを使い情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたき・食器拭き、おしぼり丸めなど役割として行って貰っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか外出で来ていない状況である。 ご家族と外出されたり、外食などに行っている状況です。	現在、近所の散歩を含め、行われていない状況である。家族による受診の際には、外食や自宅へ寄るなど、家族協力のもと行われている。	屋外での外気浴など、できることから外出支援に向けた取組みを再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には持ってもらっている。金庫を購入し保管している利用者様もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は少ないが、家族の意向にそい電話を希望される方には電話をお貸ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花のつるし飾りをりと作成し飾っています。 毎月の行事等の写真等の掲示をし振り返り楽しむ。 整理整頓を心掛けています。	トイレなどが、専門のスタッフにより、臭いもなく清潔に保たれている。リビングには、七夕飾りなど季節のもの・園児との交流写真が飾られ、季節感や生活の様子がうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人一人に合わせた居場所作りが出来る様に心がけています。 自宅よりなじみのあるものを持って来ていただける様に入居時が家族に依頼しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅よりなじみのあるものを持って来て頂きご本人の納得できるよう使用して頂いております。移動時に転倒や危険因子になる障害物は置かない。	居室名は、わかりやすく果物の名前となっている。利用者の生活実態に応じ、テレビ・ラジカセ・整理ダンス・衣類掛けなどが持ち込まれている居室もあり、利用者の安全からなるべく物を置かない居室もあるなど、個々に合わせた空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアの前に分かりやすく大きくトイレと掲示しています。		